

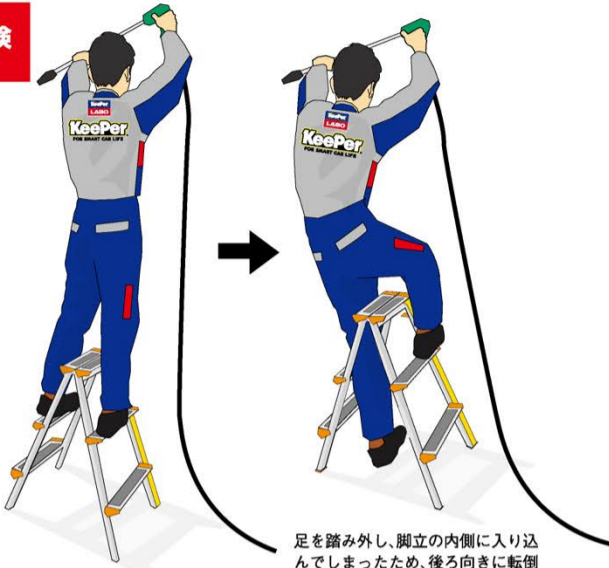
事故防止のため、3段の三角脚立の2段目に取り付ける『踏み台化アタッチメント』を作りました 必要な分を無償でお送りします 6月中旬より発送開始

昨年末、KeePer LABOで、3段の三角脚立に上り、高圧スプレーガンを使い泡の洗い流しをしている最中に、足が滑り、運が悪いことに踏み外した足が脚立の内側に入り込んでしまったため、後ろ向きに転倒し、頭部を強打してしまう、大けがを伴う大事故が発生しました。

そこで、三角脚立の踏み外し(特に足が内側に入ってしまうことのないよう)を防ぐ目的で、2段目の両側の踏み板の空間を埋める『アタッチメント』を作りました。

またさらなる事故再発防止策として、脚立に上る際は、ヘルメットを着用することを推奨いたします。

危険



足を踏み外し、脚立の内側に入り込んでしまったため、後ろ向きに転倒する事故が発生。



改善前

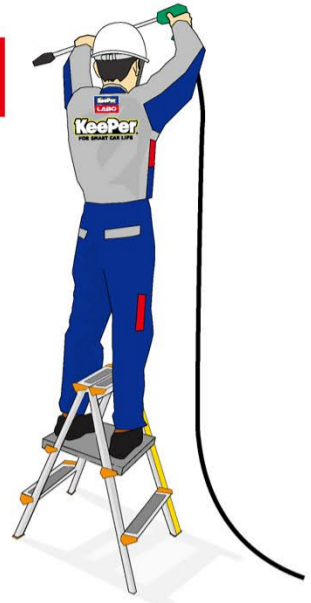
改善後

これにより、脚立の2段目の隙間がなくなり、踏み台化させることにより、安全な脚立の上り下りが出来るようになります。このアタッチメントを必要な分だけ、無償でご提供させていただきます。下記の申込書にご記入いただき、FAXでお申込みください。



※イメージサンプルです。実際の色とは異なります。

安全



無償『踏み台化アタッチメント』申込書

下記にご記入の上、右記FAXまでお送りください。 FAX:0562-45-6208

・会社名	・店舗名	・必要枚数 枚
・住所	・電話番号	
・担当者名		

キリトリ線

SUPER GT 2026

#38 / KeePer CERUMO GR Supra

【第1戦】4/11(土)・12(日)岡山国際サーキット(岡山県)

ポールポジションから優勝はならずも2位表彰台を獲得！！



ポールポジション獲得の喜びに包まれた予選から一夜明け、決勝を迎えた。スタートドライバーを務めたのは大湯都史樹選手。

前日から車の仕上がりに自信をもっていた大湯選手は、まずはホールショットを決め、トップで1コーナーへ入っていく。序盤からGT500クラスは混戦で、6周を過ぎてGT300クラスの集団が大湯選手の前に現れると、一時2番手につけた#36「TGR TEAM au TOM'S」に肉迫されたが、大湯選手はGT300車両をうまく使

い、少しずつマージンを築いていった。

一方で、2番手につけた#36の後方には、#12「TEAM IMPUL」が急接近。#36が防戦となる展開にも助けられ、大湯選手はジワジワとリードを拡大。25周目にはリードは3.4秒に拡大していた。

そんな展開のなか、先にピット作業に入っていたのは2番手だった#36。31周を終えピットに向かうと、31秒という非常に素早いピット作業を行ってきた。この動きを見て、32周を終えて大湯選手がピットに戻ると、小林利徳選手に交代した。負けじと、32秒というピットストップタイムで小林選手を送り出したが、ペナルティで後退し、まだピット作業を行っていなかった#37「TGR TEAM Deloitte TOM'S」がアウトラップの小林選手の前に出てしまう。タイヤが温まった後、小林選手はなんとかの前に出ようとしたもの

の、ピットアウト後に一気に差を詰めてきた#36が小林選手の背後に急接近してきた。

37周目、小林選手はアトウッドカーブの立ち上がりでタイミングを合わせられると、

バックストレートからヘアピンまでの攻防で奮闘むなしく#36の先行を許してしまった。その後は少しずつギャップが広がっていったが、小林選手は初めてのGT500クラスでの決勝レースながら、大きくペースを落とすわけでもなく、着実にGT300クラスの集団をかわしながら、長いスティントを戦っていった。終盤#12の接近をわずかに許したが、きっちりとポジションを守り長い82周のレースを2位で走り切った。第2戦の舞台は、昨年ポールトゥーウインを飾った富士スピードウェイ。今回の悔しさを晴らすべく、次戦に臨んでいく。



小林利徳選手はGT500デビュー戦で第2位の快挙！次戦はじめ今年のシリーズ、期待が膨らみます。応援よろしくお願いします！

【第2戦】5/3(日)・4(月祝)富士スピードウェイ(静岡県)

リア接触で左フロントにダメージ。13位でフィニッシュするも次への成長の糧に！

決勝は4番手からスタートの決勝。スタートドライバーを務めたのはGT500クラスでは初のスタート担当となった小林利徳選手。前を走る#23 Z NISMO GT500をピタリと追っていた。小林選手は7周目にGT300クラスの集団が前にはじめられるも、これもしっかりと処理。#23とのギャップを縮め、#23のインを狙ったが#23のリヤにヒットしてしまった。#23はスピンを喫し、小林選手にドライブスルーペナルティが課される。ペナルティを消化すると、11番手でコース

に復帰。9番手に戻ると、43周を終えピットイン。小林選手から交代した大湯都史樹選手は、43周目に#37 GR Supraのストップにより導入されたフルコースイエローの後、追い上げを開始したが、接触した際の左フロントのダメージが大きいが、接触した際の左フロントのダメージが大きい。84周目には後方から近づいた#16 HRC Prelude GT、#24 Z NISMO GT500の先行を許してしまうこと。その後も#12 Z NISMO GT500の先行をあっさり許してしまい、これ以上はコース上には留まれないと判断、そのまま

ピットイン。再コースインは叶わず、13位となった。



6/20(土)・21(日)に予定されていた第3戦(マレーシア大会)は現状の社会情勢(エネルギー問題・地政学リスク)に鑑み、2027年以降に延期。マレーシア大会の延期に伴う日本国内での代替大会は開催されません。次回は8/1(土)・2(日)第4戦、富士スピードウェイにて行われます。

KeePer が提供するTV番組

レース好きも、レース初心者も楽しめる!!



毎週土曜日24時から
テレ東系列で全国放送中

TVerで
毎回見逃し配信中心!
(番組放送後から1週間)

